

ジャーナル出版費を考える

社団法人日本動物学会
事務局長
永井裕子

- 日本の学術出版特殊事情
- ジャーナル製作における国際標準のワークフローの獲得
- 「出版経費」とはなにか
- ジャーナル出版とは何か

今日のテーマ

- **学会**（がっかい）は、**学問**や**研究**の従事者らが、自己の研究成果を公開発表し、その**科学的**妥当性をオープンな場で検討論議する場である。また同時に、**査読**、研究発表会、講演会、**学会誌**、**学術論文誌**などの**研究成果の発表の場を提供する業務**や、**研究者**同士の交流などの役目も果たす機関でもある。

wikipediaから

学会とは何か

- 学会とは、その**学問領域を過去、現在、未来において、支え、進展させ、またそれに責任を負う人々が善意で集う場**である。

学会とは（付けくわえるなら）

- **図書館**（としょかん）とは、図書、雑誌、視聴覚資料、点字資料、録音資料等の**メディア**や情報資料を収集、保管し、利用者への提供等を行う**施設**もしくは**機関**である。

Wikipedia

図書館

1. 科学研究費補助金

2. Jstage

我が国の特殊事情

科学研究費補助金のうち研究成果公開促進費は、研究成果の公開発表、重要な学術研究の成果の刊行及びデータベースの作成について助成することによって、我が国の学術振興と普及に資するとともに、学術の国際交流に寄与することを目的とするものであり、すぐれた研究成果の公的流通を図るものです。

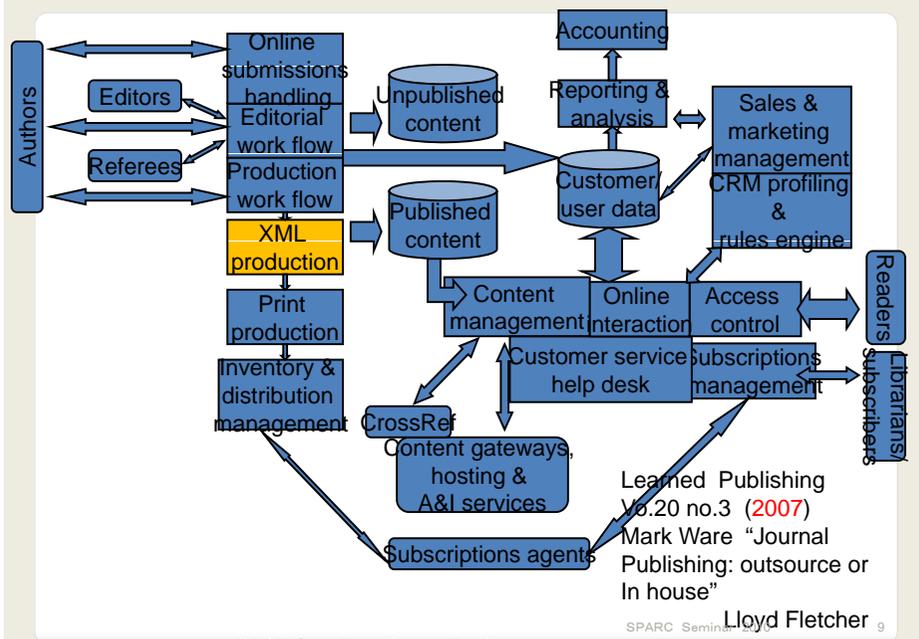
（平成22年度科学研究費補助金の概要より）

**科学研究費補助金（研究成果公開促進費）
学術定期刊行物**

- 平成20年度補助条件

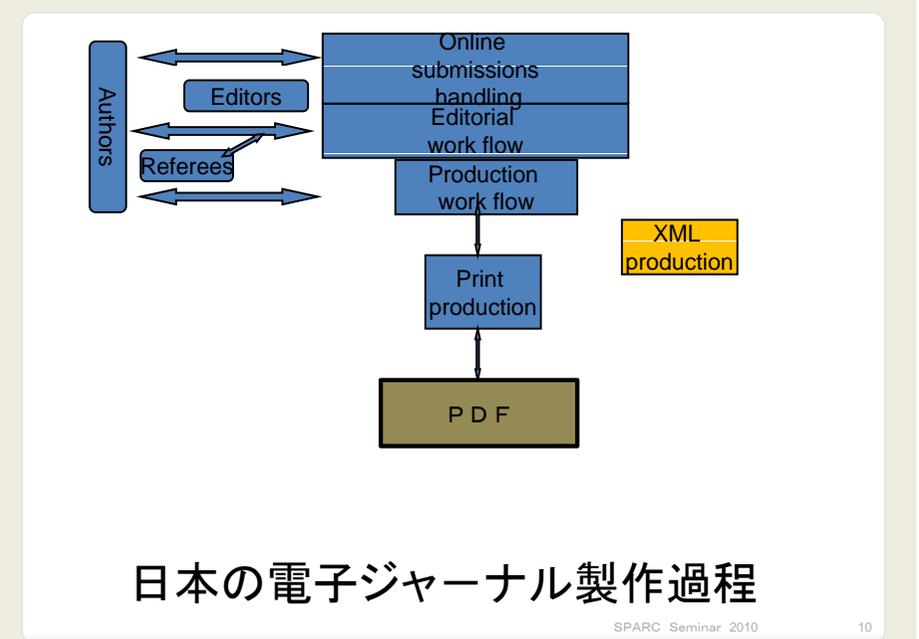
1. 直接出版費 組版代、製版代、刷版代、印刷代、用紙代および製本代
2. 欧文校閲費 欧文校閲費
3. 海外レフェリー郵送料 **閲読審査等を海外レフェリーへ依頼する際の往復の郵送料**

直接印刷出版費をサポート



21世紀初頭におけるジャーナル出版ワークフロー

SPARC Seminar 9
Lloyd Fletcher



日本の電子ジャーナル製作過程

SPARC Seminar 2010 10

- ・ 学会は、科研費を必要としており、電子ジャーナル作成へ進めなかった。
- ・ 印刷会社はデジタル化へ進めなかった
→ 市場は冊子印刷経費を必要としていた

冊子印刷経費

SPARC Seminar 2010 11

電子ジャーナル製作費も「直接印刷出版費」として認められる。つまり申請可能となった

だが

平成21年度より

SPARC Seminar 2010 12

電子ジャーナル出版経費申請にあたり、以下の項目を埋めて、申請書を作成せねばならなかった。

「直接出版費 組版代、製版代、刷版代、印刷代、用紙代および製本代」

「何部会員に配布し、何部購読され、1部の販売単価」

申請書、様式は同様

・電子ジャーナル製作申請用紙を作成

1. どのようなコンテンツを作成しているのか
2. 電子ジャーナル購読館数
3. プラットフォーム
4. Google等のアクセスを削除してアクセス数

日本学術振興会へお願い

- 600ジャーナルを超える日本最大の国営プラットフォーム
- 学会は恩恵を受けている
- XMLではない。dtd?

J s t a g e

- ・はじめに冊子体ありき。
- ・PDFとJstageが必要とする形式のコンテンツ
- ・印刷会社は、XMLを作成したくても、作成できない。市場はXMLを必要としていない。
- ・日本における「電子化」の定義

日本の電子ジャーナル



動物学会

冊子製作数



- ・ 冊子印刷数を減らす→送付料を削減
2005 300万円→2009 115万円
- ・ 会員配布の問題⇔公益社団化
- ・ 制作費を減らすことで、電子投稿システム維持費を捻出？

電子ジャーナル化

- ・ ジャーナルを今後どのようにしたいかを検討
- ・ そのために必要なものは何か
- ・ それはいくらで可能なのか
- ・ 上記を踏まえ、出版経費をあらためて検討
- ・ 科研費は？

- ・ デジタルコンテンツを作成する意味を再考
- ・ 電子ジャーナル販売の検討、再考

まとめ